

コロナ禍でも公民館活動は活発です！

11.15 駒ヶ根高原ウォーキング講座



12.25 お正月フラワーアレンジメント



第三地区公民館では、11月・12月に合わせて7つの講座が行われました。コロナ禍でしたが、多くの地域の皆さまにご参加いただきました。

2月以降も講座を予定しております。コロナウイルス感染症対策を徹底して開講いたしますので、是非ご参加ください。

※コロナウイルス感染症の状況により、延期・中止となる場合があります。

12.19 しめ縄・お飾り講座



11.18 苔テラリウム講座



11.30 押絵雑で来年の干支を作ろう



いまだに
体のバランスが
いいです。

11.26 正しい靴の選び方講座



12.7 護身術から学ぶ上手な転び方講座



あがたの
森林



第三地区

第三地区のクリスマス



12月3日(木) 第三地区福祉ひろばにて、「おひさまキッズ 親子のためのクリスマスコンサート」が開催されました。

ヴァイオリニストの山田詩織さんと、ピアノ伴奏者の橋本健裕さんをお招きし、カンタービレやクリスマスソングメドレーなどを演奏していただきました。子どもたちにも親しみやすい曲だったので、大人だけでなく子どもたちも楽しく鑑賞していました。

演奏のあとはサンタクロースが登場し、子どもたち一人ひとりにプレゼントを渡しました。子どもたちはサンタさんにびっくりしながらも、笑顔でプレゼントを受け取っていました。

今回のコンサートは地区の子育て支援の行事として開きました。日頃、生の演奏になかなか触れられないお母さんお父さん対象に、楽しんでいただくと思い企画しました。あらかじめ演奏者のお二人には子どもたちが騒いでもうかもしれないことを伝えておきました。お二人にご快諾いただいたことで、お母さんたちが気兼ねなく演奏を楽しめる時間を作れたと思います。

当日は地区内外から15組の親子にご参加いただきました。参加者同士の間隔を十分に開け、感染症対策を徹底したことで、安心してコンサートを楽しんでいただけたと思います。

保育士 森島郁子(若松町)



新成人おめでとう！

今年、第三地区で成人される方々の中から、3名の方に心境や抱負を寄せていただきました。
新成人の皆さんがそれぞれの進路で大きく活躍されることを期待します。

※1月10日(日)に予定されていた松本市の成人式は、5月9日(日)に延期されました。

進藤 拓海(四ツ谷東)

今、自分が二十歳を目前にして思うことは、子供の頃描いていた二十歳像に比べてずいぶん自分が幼いということですね。それまでは二十歳を迎えれば自動的に「大人」になれると考えていました。けれど、誕生日を迎えたところで、その前日の自分と二十歳の自分とは大して変わりません。無論、成人式に出席したからといって大人になるわけでもないでしょう。大人とはどのようにしてなるのでしょうか。仕事に就けば、家庭を持てば、歳を重ねれば大人になれるのでしょうか。

子供でも大人でもない今、私は何より自分らしく生きていこうと思います。

千野 詩緒里(四ツ谷東)

二十歳という節目の年。子どもという立場から社会の一員、大人として認められた嬉しさと、自分自身の行動一つ一つに責任を持つ必要があると考えさせられます。

昨年は新型コロナウイルスの影響で、今まで当たり前でできていたことの多くが制限され、また活動自粛などで人と人との繋がりも希薄になりました。その中で私は、家族や友人達と直接会って話をしたり、同じ空間で仲間と切磋琢磨しあったり、普通の日常を何不自由なく送れるありがたさを痛感させられました。

これから多くの人たちとの出会いを大切に、沢山の事に挑戦していきたいと思っています。

平成30年の成人式の様子



高木 祐貴子(幸町)

二十歳を迎え、大人と見なされる年齢になりました。大人になったという自覚はまだ薄いですが、これから自分の行動に責任が伴ってきます。何をすべきか考えることを心掛けながら生活していきたいです。

また、私は今、一人暮らしをしています。親元を離れたことで、今まで私が家族や地域の方々など、たくさんの人たちに支えられていたことを実感しました。支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからも精進していきたいと思っています。

まゆ玉づくり講習会

12月20日(日)に第三地区公民館で「まゆ玉づくり講習会」を開催しました。三九郎を行っているPTAのお母さんから「役員で意味も分からず三九郎をやっている、まゆ玉の作り方も分からない」という声があったことから、昨年に引き続き2回目の開催となりました。

今年はコロナの影響で第三地区12町会中、三九郎を行うのは4町会です。まゆ玉も三九郎の時に焼くことが禁止されています。五穀豊穡や商売繁盛等を祈願して神棚に飾るものなので、由来も伝えるために今年も企画しました。

参加された4家族の皆さんは「今年は三九郎が中止だけど、作れてよかった」「今までは買っていたが、初めて作って作り方が分かって良かった」「三九郎の意味が分かって良かった」等の感想をいただきました。

子どもたちは粘土遊びのように非常に楽しんで作っていました。



湧き水

新年あけましておめでとうございます。コロナ禍の中で迎えた新しい年明けは、いつもとは全く違うものとなりました。今年ほど家族が皆、健康で当たり前のようにならないうちに新年を迎えられたことに感謝したことはありません。

我が家はいつも仏壇と神棚に新年の挨拶をした後、決められたものを全て食べることから始まります。まめに過ごせるように(黒豆)サクサクと物事が進むように(煎餅)栗回し良く(栗)かき回しよく(干し柿)腰が曲がるまで元気に(海老)とお節料理には意味がある事を子どもたちにも自然に伝承されています。お節料理作りは大変ですが、行事食や郷土食こそ文化を伝承するものだと感じています。野沢菜漬けも家庭で漬ける家は少なくなりました。昔はえびす講の頃になるとあちこちの家の前で野沢菜を洗う風景がありましたが今は見られなくなりました。七夕の「ほうとう」冬至の「南瓜団子」三九郎の「まゆ玉」どれも松本の守りたい行事食だと思います。(降旗 都子)